



男女共同参画社会づくりに向けて

この一年を振り返ってみて、『男女共同参画社会づくり検討委員会』に参加したことは、私にとって大変な大仕事でした。より良い基本計画の策定を目指しての委員会は、日ごろ難しい文章を飛ばしてしまふ私には、気の抜けない連続でした。

幾度となく変更を重ね「ようやく生まれた」と思いたくなるほどの、『登別市男女共同参画基本計画』の冊子が手元に届いたときの喜び、そしてこの立派な基本計画書をつくった人たちの中に、及ばずながら私も入っていたのだと思うと、少し誇らしくも思いました。検討委員会には、各分野で活躍している方が参画しており、その立場での意見はとても勉強になりました。



のぼりべつ・はあもにいプラン21

男女平等と個人の尊重を根っこに踏まえての登別市男女共同参画基本計画は、市民にとってできるだけ早く推進されなければなりません。

そして一人ひとりが基本計画書に目を通し、「男女共同参画ってなに？」と質問しなくなったときに、初めて男女共同参画社会づくりが始まるのではないかと思えます。男女共同参画社会は、誰のためでもない私たち一人ひとりのためなのだ、少しずつ実感しているこのころです。

今後は、『登別市男女共同参画社会づくり推進会議』の委員として、基本計画の推進を見守って行きたいと思っています。  
(若草町/金澤水江さん)

知里幸恵生誕100年に向けて

「幸恵のことが話題になって、登別は元気ですね」と声が掛るようになった。

『知里幸恵記念館建設募金委員会』の池澤夏樹代表は、芥川賞作家として有名だが、会合で同席した時のこと、文学を志す青年が「まず、何の本を読んだら良いか」と質問した。即座に「知里幸恵の『アイヌ神謡集』を読みなさい」と答えていた。「エッ！」と

聞き返した青年に「千年以上かけてアイヌ民族が口承してきたストーリーには、どんな作家もかなわない」と説明していた。

これまでも藤本英夫さんや加藤幸子さん、高田宏さん、津島佑子さんなどの作家たちが、機会をとらえては幸恵を語っておられる。

去年の幸恵生誕プレ事業は『木村弓コンサート』を行い大成功だった。スタッフに恵まれたし、地域のみなさんが参加して協力してくれたおかげだ。今年は幸恵をより深く理解できるように、良い企画を立て、みなさんとまた一緒にしたいと思っている。

(登別本町/横山むつみさん・知里森舎)



知里幸恵



銀の滴の夕べ・木村弓コンサート